

2016 年度事業報告書(2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

日銀のゼロ金利政策の影響を受けて、国債利回りは 2016 年 6 月に最低水準に到達したのち、年度末にかけて緩やかな回復基調を見せている。しかし、未だ低金利が続いており、2 年後の満期償還債券の再投資時期までに金利の更なる回復が待たれるところである。

一方、アジア情勢を見てみると、中国の南シナ海問題や韓国内政不和、日韓関係の冷え込みなど、政治的問題が経済関係に影響を及ぼし、財団の事業継続の観点からも不安な要素が続いている。

このような状況にあっても、国内外の研修事業をはじめ保険フォーラムや被災学生奨学金などの公益事業は、さまざまな工夫を加えることで質の向上を図り、参加者にとって満足度の高い内容となるよう努めている。

1. 事業報告

(1) 研修事業

① 海外現地セミナー

今年度はソウル、上海、ハノイの 3 か所で現地セミナーを開催した。

開催国・地域(都市)とテーマ	開催日	共催団体	参加人数
韓国(ソウル) - 日本の公的介護保険を取り巻く状況について ～課題解決としての介護サービス～	7/13	韓国生命保険協会	71 名
中国(上海) - 日本の公的介護保険を取り巻く状況について ～課題解決としての介護サービス～	11/10	中国生命保険協会	83 名
ベトナム(ハノイ) - 生命保険の重要性 日本ではどのようにして国民の生命保険に対する意識を高め普及させたのか - 日本の生命保険商品	11/23	ベトナム生命保険協会	38 名

② 国内セミナー

国内(東京)では、本年度も英語によるセミナーを 2 回開催した。アジア各国の生命保険協会、生保関係機関、主要保険会社宛に開催案内を送付したところ、両セミナーとも定員の 2 倍近い申込があり、いずれも盛況裡に開催することができた。

セミナー名とテーマ	開催時期	基本言語	参加人数
OLIS 2016 Spring - チャネル別営業戦略	5/26～ 5/31	英語	55 名
OLIS 2016 Autumn - 生命保険会社のオペレーション	10/20～ 10/25	英語	52 名

③ 渡航費支援

今年度の国内セミナー参加者への「セミナー等参加渡航費の支援制度」による渡航費支援は、2 回合計で 23 名に合計 198 万円を支援した。

(2) 教育振興事業

① 生命保険寄附講座

慶應義塾大学理工学部の寄附講座は、引き続きプルデンシャル生命及びジブラルタ生命の協賛

を仰いで、「OLIS-プルデンシャル・ジブラルタ 生命保険寄附講座」として4月より7年目(3年講座期間の第3ターム1年目)をスタートさせた。本年度は次の通り開講し、秋学期は短期集中講義形式で開講した。また、寄附講座の一環として保険フォーラム「アクチュアリーとデータ解析〔I〕 新たな時代の予感」をテーマに2017年3月11日に開催した。

学期「講座名」	開講期間	場所
春学期「生命保険概論」	4/7～7/21	慶應義塾大学日吉キャンパス
秋学期「生命保険数学特論」	9/5～9/9	慶應義塾大学矢上キャンパス

また、2014年度より中央大学理工学部・大学院理工学部研究科において「OLIS-プルデンシャル生命・ジブラルタ生命保険寄附講座」を開講している。

学期「講座名」	開講期間	場所
保険数理	前期	中央大学理工学部
アクチュアリー数理Ⅱ	後期	中央大学大学院理工学研究科

② 保険フォーラム

保険フォーラムは各大学から高い評価を受け、初開催のみならず再開催の打診の問い合わせも増えてきている。本年度は、次の通り4回開催した。

開催大学	テーマ	開催日	参加人数
大阪大学	保険業界におけるアクチュアリーのチャレンジ	5/21	63名
東北大学	保険業界におけるキャリアパス～アクチュアリー資格と使命～	7/9	37名
一橋大学	生命保険という仕事場ー生命保険の社員は何をしているのか？	10/15	32名
東京理科大学	保険・年金業界におけるアクチュアリーのキャリアパス	10/16	57名

(3) 奨学制度

① タイ生命保険協会奨学制度

生命保険を学ぶ大学生を対象にタイ生命保険協会が実施している奨学制度を助成する「タイ生命保険協会奨学制度」は、奨学生8名に対して一人5,000バーツ、合計40,000バーツ(約12万円)を7月に給費した。

② 東日本大震災被災学生奨学金

寄附講座を開講している慶應義塾大学理工学部、理工学研究科、経済学部、経済学研究科と、川井数理科学財団との提携による東北大学、宮城教育大学及び東北学院大学で数学を専攻している学部学生と大学院生の中の震災被災学生を対象に、前年度の奨学金を継続給費した。

奨学金名	対象大学	給費人数	給費総額
(公財)アジア生命保険振興センター東日本大震災被災学生支援奨学金	慶應義塾大学	2名	100万円
(公財)アジア生命保険振興センター及び(公財)川井数理科学財団による東日本大震災被災学生支援奨学金	宮城教育大学	1名	20万円
	東北学院大学	1名	20万円
合計	3大学	4名	140万円

(4) 広報・出版事業

① 論文・書籍・情報の翻訳

昨年度から継続して、「アジアの社会保障」(法律文化社 増田雅暢・金貞任編著)の英訳に取り組んだ。アジア全般、中国、韓国の状況を詳説している前半を昨年度に翻訳・出版し、台湾、タイ、日本の3か国を取り上げる後半を今年度に翻訳・出版した。

完成した英訳本は、アジア各国の生命保険協会、生保関係機関、主要保険会社及び国内関係機関へおよそ400冊を無償で配布した。

② 財団紹介パンフレットの増刷・更新

財団の事業活動や実績などを広く知ってもらうためのパンフレット「INFINITY」(日本語版、英語版)について、7月に日本語版を200冊増刷した。また、直近の事業活動状況を反映させた新年度版を作成した。

③ ホームページの改修

毎月更新し、セミナー予定や保険フォーラム開催予定など最新の情報を発信している。

④ 「日本の生保事情」の発信

日本の生命保険事情をアジア各国に知ってもらい、自国の生命保険事業振興の参考としてもらうため、明治学院大学の姜英英講師による「日本の生保事情」を財団ホームページに掲載している。昨年度から開始した「日本の保険市場における商品の変遷」の5回目と、新シリーズ「日本の人口動態の変化と生命保険事業」の掲載を開始した。なお、当シリーズは英語、日本語、中国語(繁体字・簡体字)の3か国語、4文体で掲載している。

(5) 創設記念事業の検討

広い視野に立って財団の事業の在り方はじめ財団創設50周年(2017年)に向けた記念事業を検討するため、2016年度も引き続き次の方に運営委員会委員を依頼し、理事長を議長として次の通り運営委員会を開催した。

① 運営委員の選任

森宮 康 委員 (財団理事 明治大学名誉教授)
前田 吉昭 委員 (財団理事 東北大学知の創出センター 副センター長)
鈴木 健市 委員 (株式会社保険社編集営業局部長)
山内 恒人 委員 (慶應義塾大学理工学部数理科学科特任教授)
飯島 至雄 委員 (財団評議員 元三井住友海上火災保険(株)執行役員)

② 運営委員会の開催

(i) 第1回運営委員会

日時 2016年6月10日 17時00分～
場所 (公財)アジア生命保険振興センター理事長室
議題 ・2017年度保険フォーラム開催大学について
・財団創立50周年記念シンポジウムについて

(ii) 第2回運営委員会

日時 2016年11月17日 17時00分～
場所 (公財)アジア生命保険振興センター理事長室
議題 ・財団創立50周年記念シンポジウムについて

2. 組織運営報告

行事	開催日	主な議事・内容など
会計・業務監査会	2016年5月11日	2015年度事業と会計の監査
第16回理事会	2016年5月11日	2015年度事業報告及び財務諸表、

		「その他の事業」新設、定時評議員会の開催
第9回評議員会	2016年6月6日	2015年度事業報告及び財務諸表、 「その他の事業」新設、理事の選任
第17回理事会	2016年6月6日	代表理事の選定(みなし決議)
第1回運営委員会	2016年6月10日	今後の事業展開、財団創立50周年事業
第2回運営委員会	2016年11月17日	財団創立50周年事業
第18回理事会	2017年2月16日	2017年度事業計画及び収支予算、 2017年度資産運用計画
第10回評議員会	2017年2月16日	基本財産の処分

3. 財務会計報告

(1) 定期預金の解約

- ① 預金 大和ネクスト銀行自動継続定期預金
- ② 金額 13,000,000 円
- ③ 金利 0.08%
- ④ 解約日 2016年5月23日
- ⑤ 解約理由 普通預金残が不足するため
- ⑥ 解約後の運用
1,300万円全額を普通預金化し運転資金に充てた。

4. 管理部門

「収益事業等会計にその他事業(共益事業)を追加」することについて、2016年10月12日付にて内閣府より変更認定書を受理した。これにより、共益事業(教育振興を目的とした事業)にかかる費用については、2016年度決算から区分計上する。